

特 長

1. 高 能 率

大形のフェライトマグネットを使用した強力磁気回路により高能率です。

2. 高 耐 入 力

耐熱フィルムのボビンと耐熱ボイスコイルの使用により200℃でもボイスコイルの劣化はなく、高耐入力を実現しています。

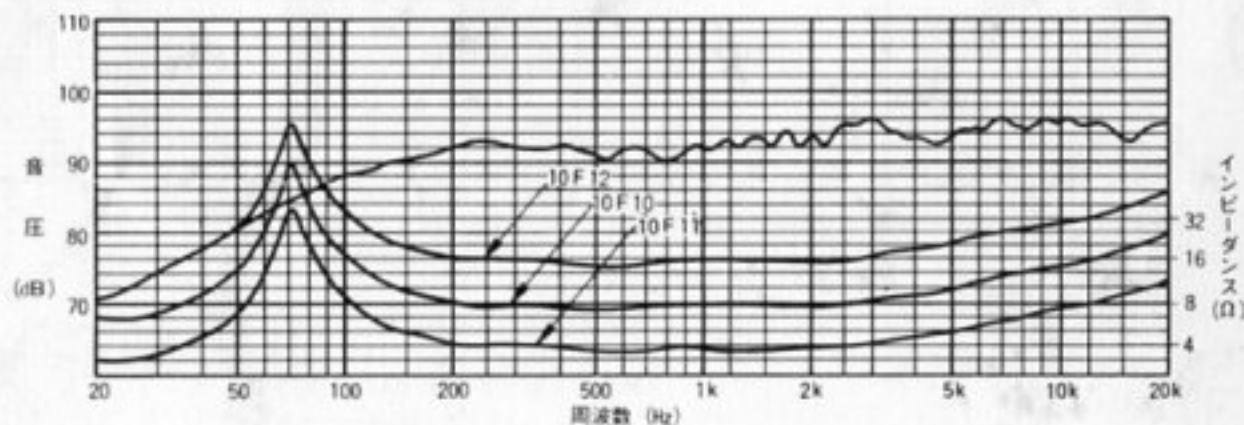
3. 高域まで平坦な周波数特性

軽量で粘り強いウェットプレスコーンをコンピュータ（有限要素法）を使って最適形状にして、平坦な周波数特性を得ています。さらにアルミドームラジエータの使用により高域までのびのある再生を行ないます。

4. 有孔ポールピース

ポールピースの中心に通気孔を設けドームラジエータ内の空気圧の上昇を防ぎ、大振幅時のひずみを減らしました。

周波数特性



測定条件
 マイクロホン: B&K4133
 入力: 1W
 マイク～スピーカ間距離: 1m
 測定箱: JIS標準密閉箱
 120×90×60 (cm)
 0dB=0.0002μbar



松下電器産業株式会社 ステレオ事業部

所在地 〒570 大阪府守口市松下町2

TEL 大阪 (06) 992-1551

本社 〒571 大阪府門真市大字門真1006

Technics

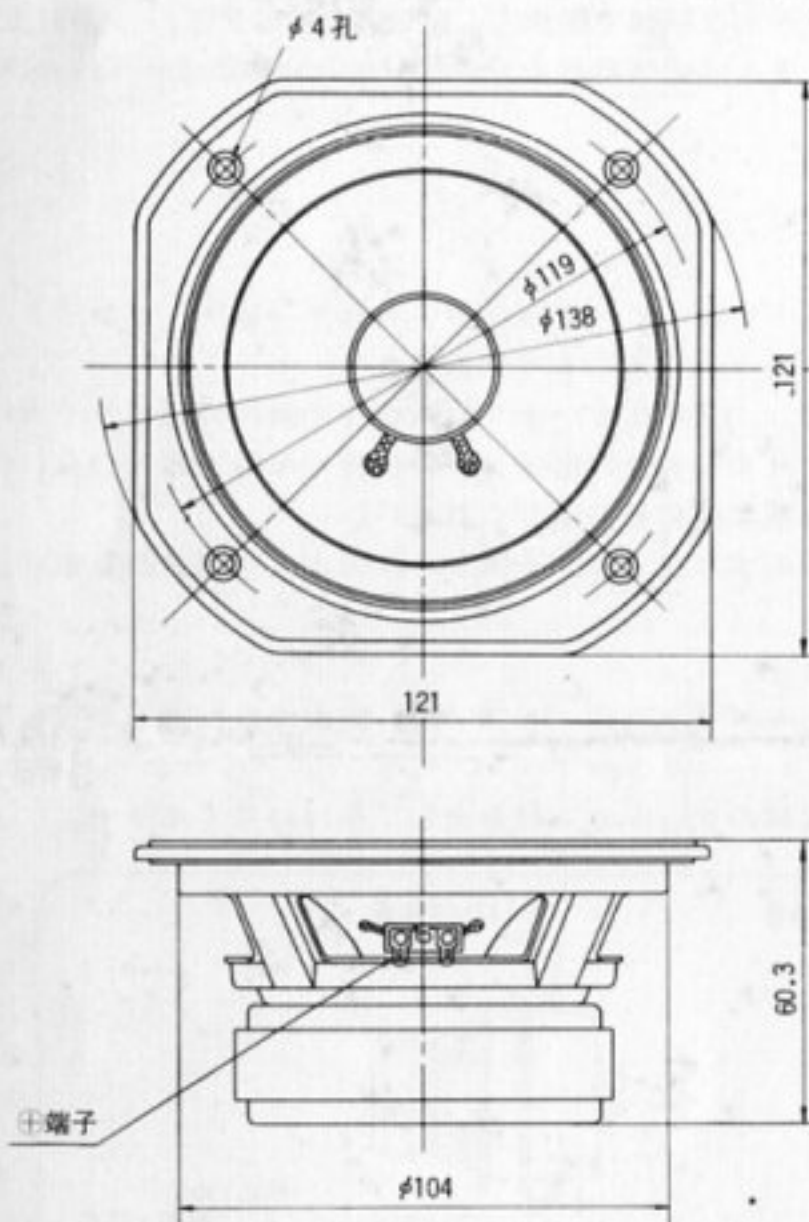
GUシリーズ・フルレンジ

EAS-IOF10 (8Ω)
 EAS-IOF11 (4Ω)
 EAS-IOF12 (16Ω)

取扱説明書

このたびはテクニクススピーカをお求めいただきましてまことにありがとうございます。

ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。



付属品

- クッション材.....1コ
- 木ネジ.....4コ
- ワッシャ.....4コ
- スプリング.....4コ
- ワッシャ.....4コ
- リセプタクル.....2コ
- Technics シール.....1枚

単位: mm

φ: 直径を示す

定 格

口径	10cm	総磁束	78,000Maxwell
インピーダンス	4Ω/8Ω/16Ω	コーン有効半径(a)	4.5cm
最低共振周波数(f ₀)	70Hz	等価質量(m ₀)	3.1g
再生周波数帯域	f ₀ ~20kHz	Q ₀	0.49
出力音圧レベル	92dB/w(1m)	マグネット重量	283g
入力	50W(Max.)	総重量	0.78kg
磁束密度	12,000Gauss		

使用上のご注意

1. 振動部に手を触れたり、傷つけないようご注意ください。特にドームラジエータは精密に成形されており、変形により著しく性能が劣化しますので触れないでください。
2. 過大入力を加えないように十分ご注意ください。
3. テストのときは必ずバッフル板またはキャビネットに取付けてください。
バッフル板またはキャビネットに取付けずにスピーカ単体で鳴らした場合には空気負荷が十分にかからないために、コーン紙が過大な振幅で振動し、振動部を破壊することがあります。
4. スピーカを直射日光の当たる所、または暖房器具の近くでお使いになるのは避けてください。

ご使用方法

1. キャビネット

スピーカの音質の半分はキャビネットによって決まる、といわれています。キャビネットの性能は大きさ、材厚、およびキャビネット形式により決まります。

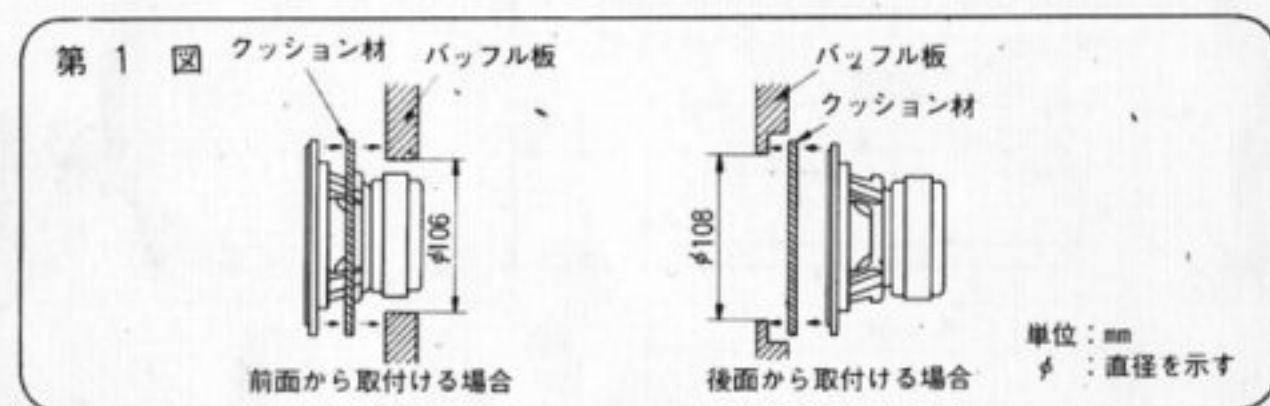
使用材の厚みは十分厚いものを使用し、共振しないように角材等で共振の起こりやすい場所を、十分に補強してください。キャビネットの材質はラワン合板や単板であれば良いのですが、軽量な材料は避け、できるだけ重い材料をお選びください。

なお、キャビネットの内部には厚手のフェルトやグラスウールのような吸音材を張り、定在波の発生を防止してください。

2. キャビネットへの取付け

第1図のように、このスピーカはキャビネットのバッフル板に前面からも後面からも取付けることができます。

取付けの時には第1図のように、付属のクッション材を介して取付けてください。



3. コードの接続

10F10、10F11、10F12のボイスコイルインピーダンスはそれぞれ、8Ω、4Ω、16Ωになっていますので、アンプの4~16Ω用出力ターミナルに接続してください。

このスピーカのターミナルボードおよび銘板には⊕⊖の表示がしてあります。アンプの極性とスピーカの極性及びステレオ再生の場合には左右の極性をそろえてください。

【スピーカの極性の調べ方】

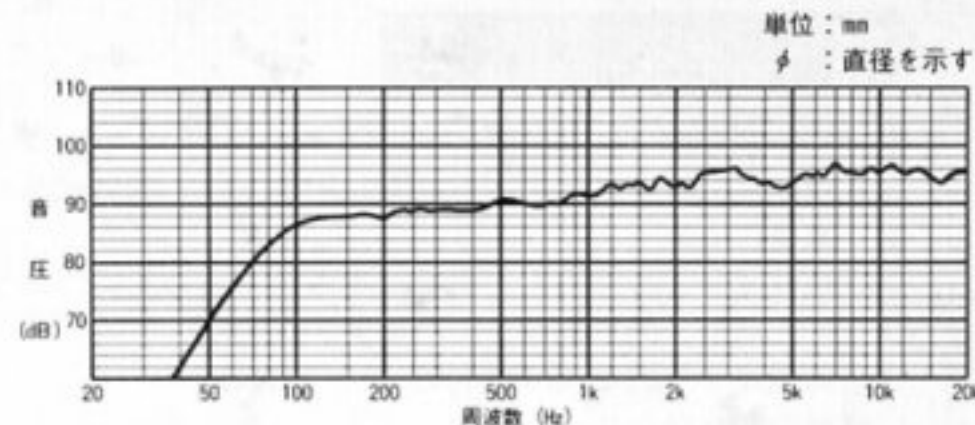
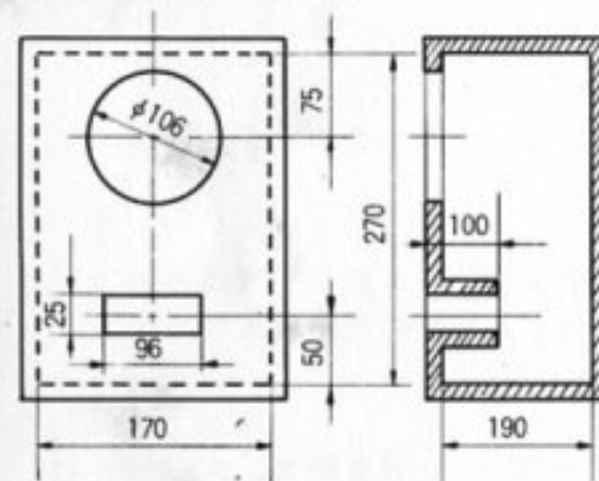
一般に、乾電池(1.5V)をスピーカの両端子に接続したとき、スピーカの振動板が前面に動けば、乾電池の⊕極側がスピーカの⊕端子になります。

【ご注意】

接続が終わりましたら、アンプの電源を入れる前にもう一度、誤りがないか、ご確認ください。

4. 推奨製作例

4-1 バスレフ型キャビネット (内容積8.7ℓ)

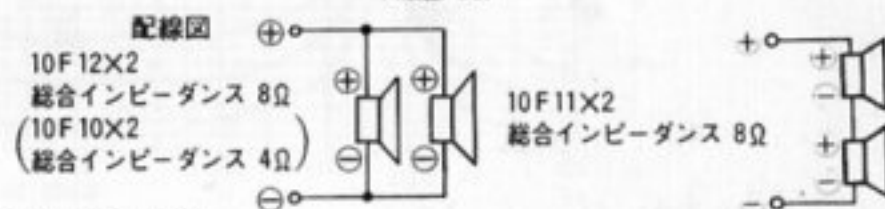
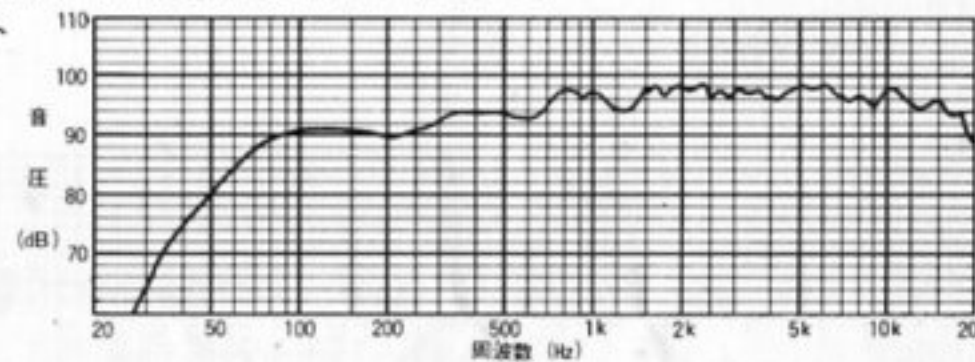
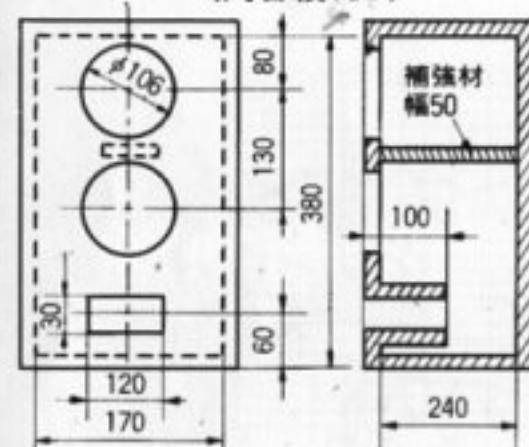


測定条件
マイクロホン：B&K4133
入力：1W
マイク～スピーカ間距離：1m
0dB：0.0002μbar

4-2 多数個使用のキャビネット

2コ以上のスピーカを同一のキャビネットに入れて使用する場合、スピーカの配置は縦並びをおすすめします。また、スピーカ相互の間隔はできるだけ近づけてください。

(a) 2本使用のバスレフ型キャビネット (内容積15ℓ)



(b) 4本使用のトーンゾイレ型キャビネット (内容積17ℓ)

このシステムは、スピーカを4本使用していますので、スピーカ相互の干渉により、高域が減衰してきますので、ツイータの追加をおすすめします。(クロスオーバー周波数6~10kHz、ツイータにのみハイパスフィルターを加える)

